

令和8年度（4月入学） 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科
 博士後期課程 一般入試（第Ⅱ期） 口述試験の概要

専攻名	口述試験の概要
バイオテクノロジー専攻	<p>修士課程あるいは社会人としての勤務の中で行ってきた研究の概要の説明に加えて、博士後期課程における研究計画の説明を求めた。専門的な知識や研究遂行能力が十分であるか、標準修業年限内に博士号を取得できる見込みがあるか、指導教員と適切にコミュニケーションがとれているかなどを確認し、総合的に博士後期課程での研究遂行に適する能力を有するか判定した。</p>
物質・材料化学専攻	<p>受験者が修士課程で研究した専門分野について、その背景や目的から研究内容に対して結果と考察を簡潔かつ単純明快に説明するとともに、試験員からの質疑やコメントに的確に回答できることを審査した。また、本学博士後期課程で研究する専門分野に関する研究背景と研究計画を説明し、その研究方針についても質疑・コメントに的確に返答できることを審査した。</p>
設計工学専攻	<p>(情報工学分野) 受験の動機、入学後の抱負などに関する質問の後、受験者が大学において身につけてきた学力・研究力を判定するために、これまでの研究、および、これからの研究計画に関するプレゼンテーションを行い、さらに質疑応答を行った。</p> <p>(機械物理学分野・機械設計学分野) ※出願者なし</p>
デザイン学専攻	<p>これまでの研究、博士後期での研究の概要ならびに計画、将来目指す方向について質問した。また、研究の手法、所属する学会や研究の発表の場など、詳細に確認した。</p>
建築学専攻	
先端ファイブ科学専攻	<p>自身の研究内容や構想を、根拠に基づいて客観的かつ簡潔にまとめ、他者に理解できるように表現することは、学会発表や研究交流の場、さらには博士論文の執筆において求められる能力であり、修士課程において身につけておくべき重要な素養である。</p> <p>そのため、口述試験では、修士課程で実施した研究の概要および研究遂行に必要とされる専門的学力を確認した。あわせて、博士課程での研究計画について、その学術的新規性、遂行可能性、研究の波及効果、将来性および発展性を質疑した。さらに、これらに関する学術的なプレゼンテーション能力や質疑応答能力について、論拠に基づき適切に説明・表現できているかについて質疑した。</p>